

県産木材を使った建具の製品化支援

支援先

ゴライ工房, 安達建具株式会社

【支援の背景】

笠間陶芸大学校では県産ブランド製品の創造を目指し、地域特性を生かした独創的で高付加価値型の製品開発を推進しています。木製品分野に関しては、茨城県家具建具商工連合会を中心とした団体と意見交換を重ねながら、「地元の家具建具技術」と「地域素材資源」を活用した製品開発に取り組んでおり、技術的な相談を受け付けております。

(支援例①)ゴライ工房から、地域素材としての「笠間焼」に注目し、建具との融合を試みたいと相談を受けました。

(支援例②)安達建具株式会社より新製品開発の相談、また同時に、県内の林業製材業界団体から、県産木材の利用拡大に向けた取り組みについての相談を受けました。

【支援の内容】

当校では相談内容に応じた技術支援を行いました。

支援例①では、笠間焼と建具の融合について、イメージコンセプトの設定や基本デザイン案の図面作製、県産材の強度データの提供、強度・寸法上適正な樹種としてヒノキ材の提案を行いました。

支援例②では、新製品開発に向けては、変形を抑え、外観を損なわないような木質材料に必要な性能について説明し、県産ヒノキやスギを積層した外観が無垢材に近い独自の積層材の使用を提案しました。また、県産木材の利用拡大に関しては、これまでの木材用途は建築向け用材が主であり、家具や建具向けの用材としてはほとんどなかったことから、県林政課森づくり推進室の協力を得て、家具建具業界・林業製材業界双方をコーディネートし、茨城木材相互市場の見学会及び、県産木材の家具建具への利用についての話し合いの場作りを行い、県産木材の利用促進に向けた支援を行いました。

【支援した製品の紹介】

令和元年度に支援先で製品化された製品を紹介します。



図1 板状の笠間焼を使ったヒノキ材建具

○支援例① 笠間焼を使ったヒノキ材建具 (図1)

タタラ(板状)の笠間焼と、ヒノキ材で構成されたシンプル、かつ重厚感のある県産木材を使った建具ドアが製品化され、販売に至りました。

価格: 800,000円(税込)

販売製造元: ゴライ工房(常陸大宮市)

問合せ先: 0294-53-3717



図2 県産ヒノキ積層材を用いた建具

○支援例② 県産ヒノキ積層材を用いた建具 (図2)

県産ヒノキを重ねた外観が無垢材に近い独自の積層材を使用した建具「Make Craft」を製品化し、販売を始めました。

この建具は、①積層材のため、無垢材に発生しやすい変形も最小限に抑えられること、②従来の量産型の既製品に多いダボ継によるものではなく、ホゾ組で加工ができるため高い強度性能、かつデザイン変更の自由度が高いことを特徴とする製品です。

価格: 80,000円~(税込)(オーダー内容により価格は変動)

販売製造元: 安達建具株式会社(小美玉市)

<https://adachitategu.wixsite.com/ad-tg>

問合せ先: 0299-46-0205

基礎となった事業

平成29年度~令和元年度 試験研究指導費(技術相談)

現在の担当グループ

窯業技術G

副校長

佐藤 茂

TEL:0296-72-0316

グループ長

寺門 秀人